

水稻生育情報 (No.6)

平成27年7月21日
県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

7月中旬に入ると、平均気温は平年よりも2.4℃高く、日照時間は平年よりも長くなりました。その結果、草丈は平年よりも高く、幼穂長は長くなりました。出穂日は平年並みかやや早くなることが予測されます(表1)。

気象庁の予測によると向こう1か月の気温が高くなる確率が50%と高いことから、乳白粒などの障害粒の発生が懸念されます。下記の水管理を参考に高品質米生産に努めましょう。

表1 水稻定点調査結果(7月21日時点)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		幼穂長 mm	出穂予測日 (月/日)
					葉色版	SPAD値		
筑西市 一本松	5月7日 (5月2日)	57 (65)	94.0 (80.9)	482 (551)	3.8 (3.6)	28.0 (29.5)	191.6 (156.0)	7月27日
下妻市 加養	5月2日 (5月2日)	42 (43)	88.5 (81.4)	387 (433)	3.7 (3.6)	29.3 (30.9)	出穂開始 (184.6)	7月24日
桜川市 元岩瀬	5月17日 (5月14日)	61 (59)	83.7 (73.3)	417 (548)	3.8 (4.1)	30.8 (35.7)	32.5 (28.3)	8月4日
桜川市 真壁町飯塚	5月7日 (5月7日)	44 (58)	90.9 (79.9)	348 (446)	3.8 (3.9)	32.9 (32.6)	138.0 (122.3)	7月30日

()内は平成22~26年(5カ年平均値) ※桜川市真壁町飯塚は過去2カ年の平均値
注)出穂日は、今後の天候により前後する場合があります。

【これからの栽培管理のポイント】

・出穂期以降の根の生育と水管理について

この時期の、健全な根は酸化鉄に覆われており、赤褐色となっています。しかし、土壌中の酸素が少ないと酸化鉄に覆われず青灰色~黒色を停止、根腐れを起こしやすくなります。

中干し以降は継続的な湛水は避け、根に水分と酸素を交互に供給する間断かん水を実施しましょう。

間断かん水は図1を参考に入水と自然落水を交互に繰り返します。収穫前の落水は「コシヒカリ」の場合、出穂30日後以降に行います。

早期の落水や間断かん水時に田面が白くなるほど乾かすと乳白米などの障害粒や登熟不良を招きます。健全な根を育て、充実した穂を实らせましょう。

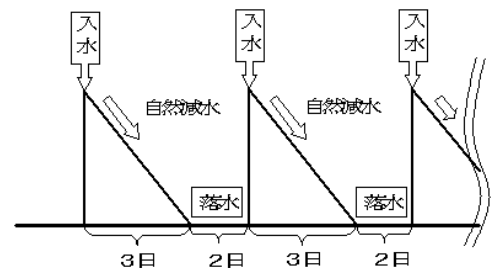


図1 間断かん水の一例

・適期収穫について

早刈りは青米が多く、千粒重が軽くなり、収量が低下します。逆に刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米などの着色米の発生の要因となります。

出穂期から収穫までの日数は35~40日程度となります。積算気温や上記の日数はあくまでも目安なので、最終的に圃場で直接籾の色(帯緑籾率)を確認して適期収穫に努めて下さい。収穫適期は帯緑籾率が10~5%程度(一穂あたり約6粒前後)の時です。

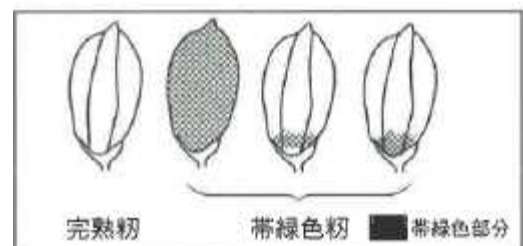


図2 帯緑籾の見分け方